

各報告事項等に関する科学委員会から助言を得たい事項

世界遺産委員会からの奨励事項である気候変動の影響へどのような対応が求められるか

「気候変動が資産に与える影響を評価し、適応するための研究及びモニタリング計画を策定、実施すること。」とあるが、これまでの管理機関等における取り組み状況等を踏まえ、気候変動の影響に関する基礎的情報として活用可能な研究成果やデータ等の知見についてご助言いただきたい。

【資料 1、資料 2/No.4、資料 4/事業 27】

新たな外来種の侵入拡散防止に関して、さらに科学的に議論すべき論点があるか

平成 27 年度（2015 年度）に新たな外来種の侵入拡散防止に関する各種のマニュアルをとりまとめ、母島で温浴処理の試行等を進めるなど、成果の現地への展開を進めているところ。新たな外来種の侵入拡散防止に関して、科学的な議論の必要性について、具体的な観点をご助言いただきたい。【資料 2/No.1】

外来ネズミ類対策に関する検討をどのような場を進めていくべきか
外来ネズミ類対策は、保全対象種や島ごとで状況が異なることから、個別特定の課題に対してそれぞれの関係者において検討・調整を進めていく段階と考えている。得られた知見の共有を図ることに加え、各島横断的な科学的な議論の必要性について、具体的な観点をご助言いただきたい。【資料 2/No.7,14】

陸産貝類保全WGにおける母島での貝食性コウガイビル (*Bipalium vagum*) への対応策の検討の進め方について

第 1 回WGにおいて、今年度の *B. vagum* の分布域と陸貝の減少の相関が見られ、早急な対策の必要性を指摘されている。WG 座長を中心とした少人数で絞り込みと優先順位付けの検討を進め、第 2 回WGにおいて議論・助言を得ることとした。このような進め方でよろしいか伺いたい。【資料 4/事業 8】

遺産登録 10 周年に関連した 10 年間のレビューの場の設定と科学委員会の主体的な関わりについて

科学委員を中心とした研究者・有識者による学術研究会を開催し、10 年間（あるいはもう少し遡っても）の生態系の変遷や取組をレビューし、次の 10 年に向けた長期モニタリング計画の検討にもつなげられるような場を設定したい。科学委員会として、主体的な参加あるいは積極的な協力をお願いしたい。

【資料 2/No.22、資料 6】

地域連絡会議で報告があったより効率的な遺産管理のあり方について、何か改善できることはないか

適正な遺産管理のあり方という観点から、既存の法制度の下で各行政機関が遺産管理を分担する現在の管理体制について、他の諸外国における法制度の事例や世界遺産の社会的側面からみた保護担保措置の考え方に関してご助言いただきたい。【参考資料4】

その他